

## 「おわりに」

2020（令和2）年度は、平成29年告示の小学校学習指導要領の本実施にあたり  
ます。3年生の社会科の目標として、「身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動や地域の産業と消費生活の様子、地域の様子の移り変わりについて、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動や地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめる技能を身につけようとする資質・能力を育成することを目指す。」とあります。また、総合的な学習の時間の目標として、「実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。」とあります。この目標を達成するために俣野の地域のことを詳しく知ることのできる学校独自の資料を持っていることはとてもうれしいことです。本校で指導する教職員手作りであることも大切です。教職員自身が子どもたちとの教育活動を通して学ぶ気持ちを持ち、地域理解に努めていることの表れです。これからも俣野小学校の良き伝統として続けてほしいです。

新しい学習指導要領での学習が始まりましたが、「またののさんぽ」を活用した学習活動のよさは、昭和55年、初版「またののさんぽ」のあとがき《おわりに》（下記）に記されている資料活用による学習活動の目的と重なるところが多いと感じます。

今後も、「またののさんぽ」と「またののさんぽ+」を活用し、俣野っ子たちの地域を大切にしたい学習を進めていきたいと思えます。

「またののさんぽ+」

またののさんぽ部会 佐藤一樹 落合ひで子 佐藤貴道 藤本一郎 三木卓也  
池田彩那 野中麻由 鈴木愛 反町明日香

### 《おわりに》

「地域に見られる人々の生活は自然環境と密接な結び付きの上に  
営まれ、地域によって生産活動や消費活動に特色があることや、  
人々の生活の様子は歴史的に変化してきたことを理解させ、地域  
社会の成員としての自覚を育てる」と三学年の社会科の総括的な  
目標として記されている。この目標を達成するために教室の学習  
だけではなく、俣野という地域社会に住んでいる人々がどんな自  
然環境の中でどんな生活をしているのか、子ども自身の目でたし  
かめさせたいという願いで「俣野の散歩」の三つの基本コースを  
設定しました。また「俣野」がどのように歴史的に変化してきた  
かを気づかせるための歴史の散歩コースを設定しました。  
それぞれの散歩コースは、ねらいがありますが、これを社会科  
の知識として覚えさせるということでなく、散歩コースを子ども  
とともに語りながら歩くことによって、子どもがどんなことに興  
味、関心を示して、どんな語りかけをしていくのかをみつめてほ  
しい。  
畑で働いている人、乳牛の世話をする人、花を栽培する人、野  
菜を売る人、祭りを世話する人、たこあげをする人：俣野の地域  
社会で日々働いている人々に問いかけさせるきっかけとしたい。  
また、草花や野菜、樹木、昆虫、野鳥：という俣野の自然の中  
でうごめいている植物や生物へ問いかけさせる手がかりにしたい。  
散歩しながら感じとったことを文字やことば、絵、身体等で表  
現する時間と場をぜひつくってやってほしい。子どもの目でとら  
えたことをもとにして、この「またののさんぽ」は毎年すこしす  
こ修正加筆していつてほしい。この意味で一回きりの散歩でおわ  
るのではなく、四季おりおりの俣野のすがたにふれさせることが  
必要になってくる。このような豊かな体験を自然や社会事象へい  
かに対応していくかを学ぶすばらしい糧にしたい。

（昭和五十五年）